

# 船舶事故調査報告書

平成31年3月20日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

|                                  |  |
|----------------------------------|--|
| 事故種類                             | 衝突   |
| 発生日時                             | 平成30年8月11日 11時17分ごろ  |
| 発生場所                             | 愛媛県愛南町油袋漁港南西方沖<br>塩子島黒磐灯台から真方位345° 1.3海里付近<br>(概位 北緯33° 02.5′ 東経132° 27.1′)  |
| 事故の概要                            | 漁船松宮丸は、西進中、また、プレジャーボートほった5号は、漂泊中、両船が衝突した。  |
| 事故調査の経過                          | 平成30年9月7日、主管調査官（広島事務所）を指名<br>原因関係者から意見聴取実施済  |
| 事実情報<br>船種船名、総トン数<br>船舶番号、船舶所有者等 | A 漁船 松宮丸、1.2トン<br>EH3-71618（漁船登録番号）、個人所有<br>B プレジャーボート ほった5号、5トン未満（長さ5.33m）<br>281-27674愛媛、個人所有  |
| 乗組員等に関する情報                       | A 船長A、二級小型・特殊・特定<br>B 船長B、二級小型・特殊・特定   |
| 負傷者                              | なし   |
| 損傷                               | A 船底外板に擦過傷<br>B 両舷船首部外板上縁に亀裂を伴う擦過傷   |
| 気象・海象                            | 気象：天気 曇り、風向 東、風力 1、視界 良好<br>海象：波高 約0.5m、潮汐 低潮時   |
| 事故の経過                            | <p>A船は、船長Aが1人で乗り組み、油袋漁港南西方沖の養殖筏<sup>いかだ</sup>で作業した後、別の養殖筏に向けて約20ノット（kn）の速力（対地速力、以下同じ。）で西進中、船首部がB船の左舷船首部に衝突し、B船に乗り上がり、船外機がB船の右舷側ブルワークに引っ掛かって停止した。</p> <p>船長Aは、A船を海面に降ろし、船長B及びB船の同乗者1人（以下「同乗者B」という。）を救助した後、油袋漁港に戻った。</p> <p>船長Aは、約20knの速力で航行した場合、A船の船首部が浮上し、船首方に死角が生じて見通すことができないことを知っていたが、本事故当時、船首部に漁具の浮子<sup>うき</sup>を積んでいた上、船尾部に座っていて視線が低い位置にあったので、B船が船首方の死角に入っていることに気付かなかったと本事故後に思った。</p> <p>B船は、船長Bが1人で乗り組み、同乗者Bを乗せ、船首を南方に向けて船外機を停止して釣りをしながら漂泊中、船長Bが、A船が左舷方から向かってくことに気付き、航行するA船が漂泊しているB船を避けると思い、漂泊を続けたところ、A船の動向に不安を感じ、</p> |

|       |   |
|-------|---|
|       | <p>大声を出すなどしたが、A船が避けずに接近してきたので、同乗者Bと共に海に飛び込んだのち、A船と衝突した。</p> <p>船長A、船長B及び同乗者Bは、救命胴衣を着用していた。</p>  |
| 分析    | <p>A船は、油袋漁港南西方沖を西進中、船長Aが、船首部に積んだ浮子及び船首浮上により船首方に死角が生じている状況下、同死角を補う見張りを適切に行わずに航行を続けたことから、前路で漂泊中のB船に気付かず、B船と衝突したものと考えられる。</p> <p>B船は、油袋漁港南西方沖で漂泊中、船長Bが、A船が向かってくことに気付いた際、航行するA船が漂泊しているB船を避けると思い、漂泊を続けたことから、A船との衝突を避ける措置をとる時機を失し、A船と衝突したものと考えられる。</p>  |
| 原因    | <p>本事故は、油袋漁港南西方沖において、A船が西進中、B船が漂泊中、船長Aが、船首部に積んだ浮子及び船首浮上により船首方に死角が生じている状況下、同死角を補う見張りを適切に行わずに航行を続け、また、船長Bが、航行するA船が漂泊しているB船を避けると思い、漂泊を続けたため、両船が衝突したものと考えられる。</p>   |
| 再発防止策 | <p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 船長は、船首方に死角が生じた場合、船首を左右に振るなどして死角を補う見張りを行うこと。</li> <li>・ 船首方の見張りの妨げにならないよう船首部には漁具等を置くことを避けることが望ましい。</li> <li>・ 船長は、漂泊中、接近する他船の動静に注意し、他船が自船に気付いていない可能性を考慮し、余裕のある時機に機関を始動して移動するなどの衝突を避けるための措置を採ること。</li> </ul> |